

愛知県から事業委託業務受注

“災害時のペット同行避難を支援”「新コンテナハウス開発」

鉄鋼建材商社の森定興商(本社・名古屋市中村区、社長・森裕之氏)は、愛知県防災安全局から「コンテナハウス活用モデル事業委託業務」を受注し、地震など災害時のペット同行避難を支援する新たなコンテナハウスを開発、製作を開始した。コンテナの製造販売・一般廃棄物処理業などを手掛けるピースノート(本社・栃木県宇都宮市、社長・河村公威氏)、商品陳列器具・什器メーカーの三洋スーパースタンド(本社・名古屋市昭和区、社長・三浦洋一氏)と共同開発。ペット専用のコンテナハウスを広域避難所などに設置することで、飼い主が犬や猫などのペットを連れて躊躇なく避難することを可能にする。

近年、地震や洪水など自然災害発生時に犬や猫などペットと一緒に避難する同行避難への対応の難しさが指摘されている。こうした課題に対し、昨年愛知県の防災安全局防災部災害対策課がペットの同行避難を推進するアイデアを募集。森定興商らが案件参画に向けて着目したのがコンテナハウスだった。

コンテナハウスは店舗や事務所、宿舎などさまざまな用途で活用されている。本プロジェクト参画に当たり、保護猫活動家やペットショップ、動物病院などからの助言を基に開発したコンテナハウスは、既存コンテナと同サイズで移動を前提とした柱・梁仕様による躯体構造。内装レイアウトやガラス張りなど外壁材も自由に設定できる。

来年4月から建築基準法の4号特例が改定され基本的にコンテナハウスでも建築確認などの図書が必要になるが、基礎も建築確認対応の着脱式(特許出願中)にするなど対応している。森定興商はコンテナの製作、鉄骨・建材の手配を担当。ピースノートはコンテナの企画設計を手掛け、三洋スーパースタンドはペット用ゲージの設計・製作を担当する。その他、保護猫団体のオリ猫シェルターが製作に関するアドバイスを提供している。

平時には保護猫活動の拠点、コミュニティスペース、熱中症対策やクーリングシェルターとして活用が可能。災害時にはペット同行避難施設として、現地調査、自治体からの協力要請などを経てコンテナの運搬・設置を行う。コンテナで「移動」が可能のため、災害発生前に安全な場所に設置して備えることもできる。今回愛知県から事業委託業務の受注により、現在ペット同行避難用の20フィートコンテナハウスを製造中で、今年度中に納入する予定。

また、来月10日に名古屋市西区の庄内緑地で開催される「あいち防災フェスタ」にサンプルのコンテナハウスを展示する。

今後、同コンセプトのコンテナハウスを全国の自治体やペット事業者らに向けて営業展開。またピースノートらとの連携により、移動・設置のメリットを生かした医療分野

や農業施設向け、国や自治体が進める国土強靱化対策関連など、新規分野の開拓にも取り組んでいく方針だ。



森定興商らが愛知県に提唱するコンテナハウスのペットステーションとしての活用例(イメージ)